学校番号	3018

令和2年度　　公民　　科

教科	公民	科目	現代社会	単位数	（ 1 ）単位	年次	（ 1 ）年次
使用教科書	現代社会（数研出版）						
副教材等	最新図説　現社（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

1年次の現代社会では、中学公民分野の知識をもとに、政治分野の学習からスタートする。民主政治が、世界および日本においてどのような道のりを経て獲得されてきたか、そもそも民主政治の本質とは何かを学ぶ。また、日本国憲法の基本原理を学び、平和主義・基本的人権の尊重・国民主権などの内容が、どのような経緯で規定されたかを学習する。その上で基本的人権について、国際的な人権保障の流れも踏まえて学ぶ。日本国憲法の前文および各条文を読み、その理念を理解するとともに、様々な人権についてその意義を考えることが重要である。さらに地球市民の一員として、多様な価値観を理解した上で、冷静で公正・公平な判断力を身につけることも大切である。基本的な知識を習得すると同時に、普段から新聞・テレビなどメディアによる情報に興味・関心を持って接し、日本や諸外国の現状や課題に目を向け、自分の意見をまとめることが肝要である。

2　学習の到達目標

中学校で学んだ公民分野の基礎知識をベースにして政治分野の学習を行い、２年次現代社会、３年次政治・経済の授業でさらに学習を発展させ、入試に対応できる政治経済分野の基礎力を身につける。1年次の目標としては、現代社会の諸課題に関心を持つことからスタートし、その解決について考察しつつ、自分なりの意見を持つことを目標とする。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	現代の社会と人間にかかわる事柄に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現にむけて参加、協力する態度を身につけ人間としてのあり方生き方についての自覚を深めようとする。そのためにも世の中の動きに常に興味・関心を持ち、積極的に考察しようとする態度をもつ。	現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見いだし、社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、自分の意見を形成し、意見及び判断の過程や結果を適切に表現している。	現代の社会と人間にかかわる事柄に関する様々なメディアの情報・文献などの資料を収集し、有用な情報を適切に選択し、効果的に活用している。	現代の社会的事象と人間としてのあり方生き方とに関わる基本的な事柄を理解し、その知識を身につけている。その際、多様な価値観があることを理解した上で判断・理解することが肝要である。
評価方法	ワークシート･ノート等の提出、学習状況の観察	定期考査の結果、ワークシート･ノート等の提出、学習状況の観察	定期考査の結果、ワークシート･ノート等の提出、学習状況の観察	定期考査の結果、ワークシート･ノート等の提出、学習状況の観察

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。

学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期中間	個人の尊重と法の支配	民主政治の基本原理 ・民主政治における個人と国家 ・法の支配 ・明治憲法と日本国憲法	○	○ ○	○	○ ○	a:民主政治が私達の生活と関わっており、民主社会に主体的に生きる人間のありかた・生き方について思索を深められる。 b:民主政治における国家と個人のありかたが考察できる。 c:様々な資料や文献を通じて法などの社会規範の役割を理解することができる。 d:民主政治のあゆみが理解できる。	定期考査の結果、ワークシート・ノート等の提出、学習状況の観察
前期期末	個人の尊重と法の支配	日本国憲法と基本的人権 ・基本的人権の保障	○	○	○	○	ａ：男女間や国籍の違いなど身近なところで人権が保障されているか関心を持つ。 ｂ:日本国憲法で保障されている権利が理解できその保障と他者の権利や公共の利益との調和について考察できる。 ｃ：基本的人権が具体的な事件でどのように適用されているか資料で調べられる。 d:日本国憲法の三大原理や基本的人権の内容が理解できる。	定期考査の結果、ワークシート・ノート等の提出、学習状況の観察
後期中間	個人の尊重と法の支配	日本国憲法と基本的人権 ・基本的人権の保障 ・国際的な人権保障	○	○	○	○	ａ：男女間や国籍の違いなど身近なところで人権が保障されているか関心を持つ。 ｂ:日本国憲法で保障されている権利が理解できその保障と他者の権利や公共の利益との調和について考察できる。日本の国際貢献について意見を持っている。 ｃ：基本的人権が具体的な事件でどのように適用されているか資料で調べられる。 d:日本国憲法の三大原理や基本的人権の内容が理解できる。国際情勢の変化についても理解する。	定期考査の結果、ワークシート・ノート等の提出、学習状況の観察
後期期末	近代の民主政治と政治参加の意義	日本の政治機構 ・国会のしくみと役割 ・内閣のしくみと役割 ・裁判所の役割	○ ○	○	○	○ ○ ○	a:１８歳選挙などを通じて政治に関心を持つことができる。 b:行政機構の拡大の現状を理解し、その是非について主体的に考察・意見をもつ。 c:新聞などメディアの政治に関する報道の違いに注目し、多角的なとらえ方をすることができる。 d:三権相互の関係とそれぞれの役割について知り、理解を深める。	定期考査の結果、ワークシート・ノート等の提出、学習状況の観察

※　表中の観点について　　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。